

一四
勞働祭日と定られてゐた。五月一日は同時に二様の祭日であつた。此日織物工業の中心地と云はれてゐるフルルミーでは若い男女の群が野に出て楽しい一日を踊り狂つてゐたが總て名残を惜しみつゝ野から里へ歸らうとした。恰度その頃、フルルミーでは織物職工約二萬人の罷工が起つてメイ、デーの當日に至つても尙落着を見なかつた野の歡びに反し町は異様に殺氣立つてゐた。折柄の五月一日でもあり罷業職工に不穩の舉動があつてはならぬとあつて警官や兵士が町に警戒してゐたのである。と何かの行違ひから罷業職工と警官及兵士との間に争ひが起つて數人の職工は引捕へられた。折柄恰度其處へ來合せたのが野から戻りの若い男女であつた。彼等は職工が警官の手に捕へられやうとしてゐるのを見て憤慨した。野から取つて

來た白いさんざしの枝を打振り乍ら「彼が求むるは我等の同胞なるぞ」と歌を唄つて職工側に應援した少女があつた。彼女はマリア、ブランドと叫ぶ十八才の美しい少女であつた。又手にした三色旗を振り乍ら少女の唄に聲を合せて同じく職工側に氣勢を深むやうとした少年があつた。彼はドモンド、ジロットと叫ぶ十九才の美少年であつた。其他多くの男女も二人を中心にして聲を合せて歌つたそして罵つた。すると何思つたか軍隊の指揮官は突然「撃て」と命令した。それは餘りに唐突な、そして無法な命令であつた。忽ち九名の人が仆れた。少女マリア、ブランドは白い花の枝を掴んだ儘紅に染つて言されてゐた。少年ドモンドジロットも三色旗を血染にして仆れてゐた。中には十才の子供も殺された。二十四名の負